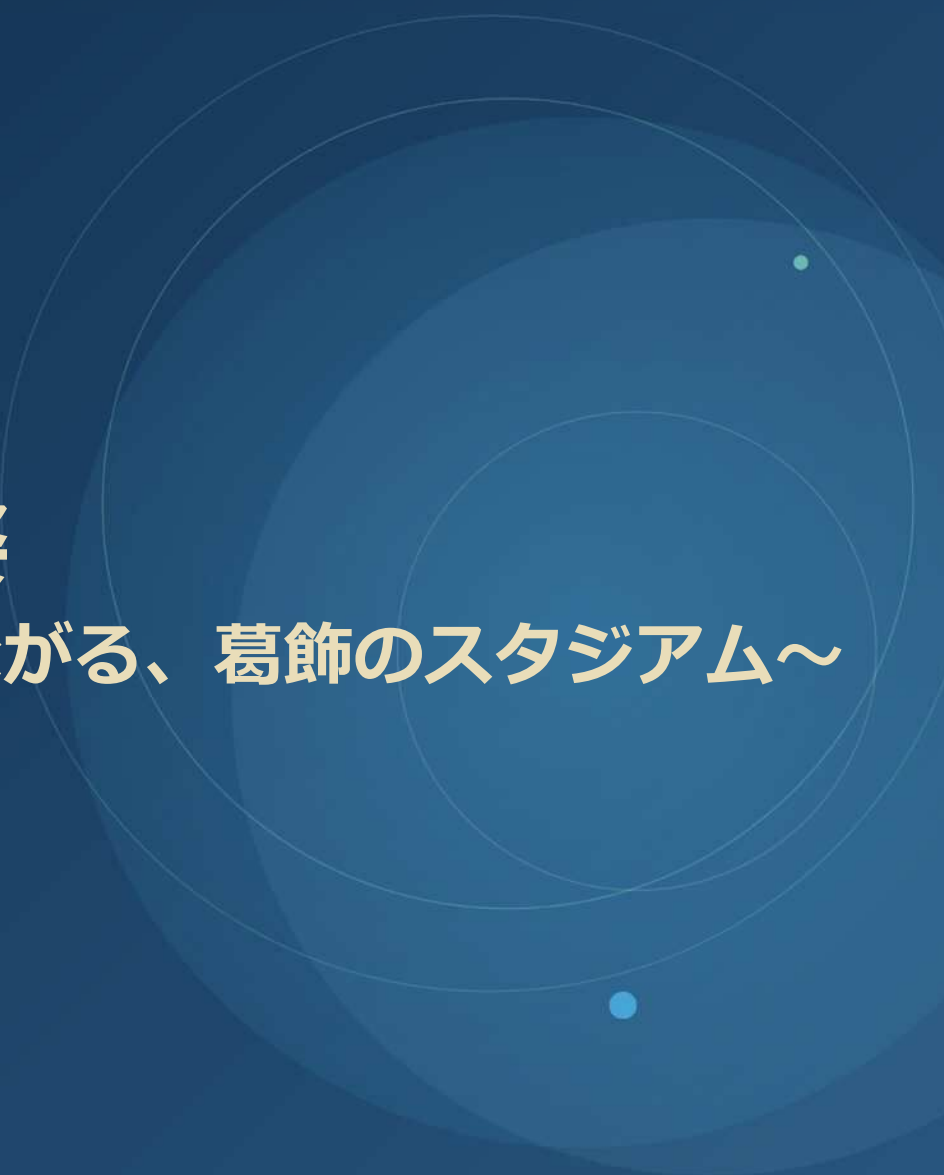


The background features a series of concentric circles in shades of blue, with small dots placed at various points along the circles, creating a sense of depth and movement.

葛飾区における スタジアムのあるべき姿 ～365日、まちが沸く。世界とつながる、葛飾のスタジアム～

令和8年10月策定
葛飾区政策経営部政策企画課（スタジアム構想担当）

これまでの経緯と「スタジアムのあるべき姿」策定の背景

検討の経緯と今後の想定スケジュール

- **令和5年2月**
私学事業団総合運動場の取得とスタジアム整備も含む将来の活用に向け、区と私学事業団が基本協定を締結しました。
- **令和6年3月**
区が私学事業団から総合運動場の土地を取得しました。
- **令和6年9月**
私学事業団総合運動場を「東新小岩運動場」として定め、区民の利用を開始しました。
- **令和8年2月**
東新小岩運動場を都市計画上の「運動公園」とすることを決定しました。
- **令和8年6月**
葛飾区スタジアム構想事業検討委員会を発足しました。
- **令和9年3月（予定）**
検討委員会の検討結果を踏まえ、「スタジアム構想」を策定する予定です。
- **令和9年4月以降（予定）**
公募等を含めた事業化の段階へ移行し、実現に向けた取組を進めます。

現状及び背景

【現状】

葛飾区では、誰もがスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を送ることができる環境づくりを進めており、令和6年3月に私学事業団総合運動場の敷地等を取得し、現在は「東新小岩運動場」として活用を図るとともに、将来的にスタジアムを単なるスポーツ施設としてではなく、交流やにぎわいを創出し、地域の活性化やまちづくりにつながる拠点として位置付け、その実現に向けた検討を行っています。

【背景】

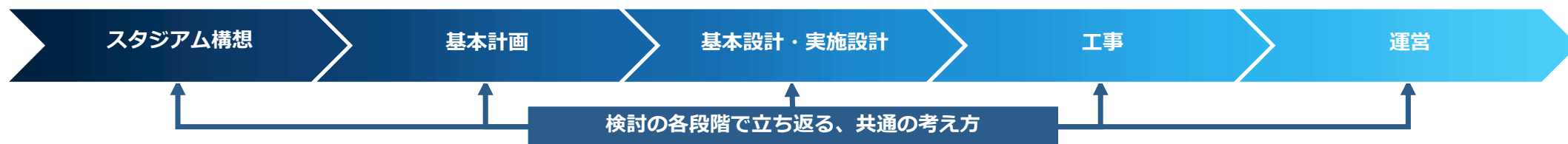
スタジアム整備は、計画から整備、運営に至るまで長期間にわたる事業であり、その過程では社会情勢や地域ニーズ、技術の変化など様々な要因への対応が求められます。このため、事業化を進めるに当たり、スタジアムが地域において果たすべき役割や目指す方向性を明確にし、検討や意思決定に関わる共通の考え方を整理しておくことが重要です。そこで、将来にわたり一貫した視点で事業を推進するため、「スタジアムのあるべき姿」を策定します。

【これまで実施した住民説明会等】

日程	内容
令和5年6月17日	私学事業団総合運動場の取得・活用に向けた検討状況について
令和5年10月27日	土地譲渡契約及び区管理移行後の施設利用方法の検討状況について
令和6年4月20日	私学事業団総合運動場敷地の取得及び今後の施設利用方法について
令和7年3月15日	スタジアム構想に係る基礎調査結果等の報告について
令和7年7月12日	都市計画公園（原案）及びスタジアム構想について
令和8年2月14日	民間事業者ヒアリングの結果報告及び今後の進め方について
令和8年3月14日	セミナー「スタジアムとまちづくり」の開催

あるべき姿の策定・活用方針

- 今後の検討の共通の考え方として、スタジアムの将来像や方向性、理念等からなる「スタジアムのあるべき姿」を策定します。
- 「スタジアムのあるべき姿」は、新小岩地域の特性や課題、期待される役割を踏まえ、「葛飾らしさ」を示す4つのあり方と公共性を支える5つの要素で構成します。これらがすべて実現された状態を「あるべき姿」とします。
- 「スタジアムのあるべき姿」を、スタジアム構想から基本計画・設計・工事・運営までの共通の考え方とします。



スタジアムのあるべき姿
～365日、まちが沸く。世界とつながる、葛飾のスタジアム～

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方

①国際コンテンツの発信拠点

②産学官金連携による共創の拠点

③地域との共存拠点

④トップレベルのスポーツの感動を届け、憧れを育む拠点



公共性を支える5つの要素

①都市公園とスタジアムの親和性

②防災拠点としてのスタジアム

③地域とスタジアムの共存

④スポーツを軸とした価値の提供

⑤スタジアムの公共性と経済性

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方 ①国際コンテンツの発信拠点

- 『キャプテン翼』をはじめとする葛飾区のコンテンツは**海外でも高い認知度**を持ちます。スタジアムを**国際的な発信・交流の拠点**とします。
- 23区初のJ1基準の球技専用スタジアム**という**希少性**と地域資源を掛け合わせます。区内外・海外から人を呼び込み、地域へ還元します。

目指す姿

世界に届く地域コンテンツ
の活用

国内外への発信・交流機会
の創出

観光資源・ランドマーク
としての活用

首都・東京の新たな拠点
としての発信

- 葛飾で育まれた文化や物語を生かし、区の魅力を国内外へ継続的に発信していく拠点とします。
- 試合日以外も地域に開かれた場として活用し、『キャプテン翼』など葛飾区のコンテンツを国内外へ発信するとともに、多様な担い手との連携・交流を促す拠点を目指します。
- 『キャプテン翼』などのブランド力を生かし、区のシンボル・観光資源として位置付け、インバウンドを含む新たな来訪の流れを地域につなげます。
- 23区初のJ1基準の球技専用スタジアムとして、国内外から注目される場となり、葛飾区の魅力を世界に発信します。

参考事例

サンティアゴ・ベルナベウ（スペイン・マドリード）

- クラブの歴史や名場面を体感できるミュージアムやスタジアムツアーが年間を通じて提供され、試合日以外にも国内外から来訪者を呼び込む観光の目的地となっています。
- 開閉式屋根や格納式ピッチを備え、サッカーに加えて音楽ライブや大型スポーツイベント、企業イベントなど、多様な用途に活用されています。



スタジアム外観



スタジアム内ミュージアム

出典：Madridista News, レアル・マドリードHP

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方 ②産学官金連携による共創の拠点

- 区内のものづくり企業、伝統産業、大学等の知的資源を生かすとともに、スタジアムを**産業の競争力強化と産学官金連携の拠点**とすることを目指します。
- 展示・交流・共創の場を備えるとともに、区内企業が区外・海外の企業や人材と出会い、**新たな事業が生まれる場**をつくることを目指します。

目指す姿

地域産業の魅力・技術の発信

- 区内のものづくりや伝統産業の技術と魅力を、国内外に向けて発信できる場を目指します。

産学官金による共創ネットワークの構築

- 企業、大学、学校、行政、金融機関、地域団体が分野を越えて関わり、知見や資源を結び付ける**共創基盤**を目指します。

企業・人材が集い挑戦できる場の提供

- 地域の企業や新たな担い手、学生などが集い、分野を問わず挑戦できる機会を生み出す場を目指します。

365日稼働を支える施設の工夫

- 天然芝育成に係るスタジアムの各種可動機構や芝の持続可能な張替えを行うマネジメント手法などを検討し、芝の養生と多目的利用を両立する工夫により、365日稼働するスタジアムを目指します。

参考事例

ヨハン・クライフ・アレナ（オランダ・アムステルダム）

- スタジアムと周辺地区を「都市の縮図」と捉え、実際に人が集まる環境をそのまま実証の場として開放しているスタジアムです。
- 自治体や大学、研究機関、企業、スタートアップが参画し、エネルギーの地産地消や大型蓄電池、モビリティ、混雑時の安全管理、来場者体験の向上などに取り組んでいます。
- ここで生まれた技術やノウハウは他の施設や都市へも展開され、スタジアムが産業を生み出す基盤として機能しています。



スタジアム外観



スタジアム内部の大型蓄電池

出典：ヨハン・クライフ・アレナHP

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方 ③地域との共存拠点

- スタジアムを、サッカー等のスポーツにとどまらない場とします。葛飾区、地域企業、大学等がデータを収集し、地域課題の解決に取り組むリビングラボなどを導入することで、**地域との共存拠点**として位置付けます。
- 整備の過程から地域とともに考えます。取組を公開し、**成果を地域へ還元し続ける共存拠点**とします。

目指す姿

地域課題を解決する
リビングラボなどの導入

地域産業・大学と連携した
実証の実施

区民が継続的に参加できる
仕組みの構築

駅前・商店街とつながる
にぎわい

- スポーツを起点に、健康、教育、福祉、まちづくりをつなぎ、**地域課題の解決に継続的に取り組む場**とするとともに、まちづくりとの連携を踏まえた交通計画や都市計画への展開を目指します。
- 地域の企業や大学等と連携し、技術や知見を生かした取組を実践しながら育てていく場とするとともに、研究から実践に生かせるリビングテックを通じた地域のDXを促す拠点を目指します。
- 構想の段階から区民とともに考え、完成後も関わり続けられる、**地域に開かれた場**とします。
- 試合後の回遊など、駅前商店街や周辺空間と人の流れを連動させ、**地域のにぎわいと混雑の緩和を両立すること**を目指します。

参考事例

クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク（英国・ロンドン）

- ロンドン五輪のレガシーである公園全体を、地域ぐるみの実証の場（リビングラボ）として開放している事例です。
- 住民や学校、大学、自治体、企業など多様な主体が参加し、気候変動への対応、健康、移動のしやすさといった地域課題に取り組んでいます。
- 住民自身が課題を持ち込み、解決策をともにつくる仕組みを備え、試した成果を地域の暮らしへ実装しています。



スタジアム外観



イノベーション・フォーラムの様子

出典：クイーン・エリザベス・オリンピック・パークHP

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方 ④ トップレベルのスポーツの感動を届け、憧れを育む拠点

- 23区初のJ1基準の球技専用スタジアムとして、選手と観客の距離が近く、**トップレベルの競技がもたらす感動を分かち合える場**とします。
- 選手が最高の力を発揮できる環境を整えます。そこで生まれる憧れが、**次の世代の目標となる拠点**とします。

目指す姿

最高の競技環境の提供

- 更衣・回復のための諸室や、屋根・空調による快適な環境を備え、選手が最大限の力を発揮できる場とします。

臨場感を共有する「みる」価値の提供

- 球技専用スタジアムの利点を生かし、選手と観客がともに臨場感と一体感を得られる場とします。

子どもたちの憧れと目標を育む環境づくり

- 天然芝でのプレーや一流の試合との出会いを通じ、子どもたちが目標を描ける場とします。

選手の声を反映した施設づくり

- 円形のロッカールームや冷浴設備など、その時代に即した競技環境と選手のニーズを取り入れ、競技力と一体感を高める空間とします。

参考事例

トッテナム・ホットスパー・スタジアム（英国・ロンドン）

- 観客をピッチに近づけることを設計思想とし、最前列とタッチラインの距離を約5～8mまで近接させたスタジアムです。
- 大規模な一層式スタンドと音響設計により、観客の声が場内を包み込む、一体感のある観戦環境を実現しています。
- クラブと地域の歴史を伝える体験型のミュージアムを併設し、観戦とあわせてスポーツ文化に触れられる場となっています。



スタジアム外観



ピッチに近い座席

出典：MFS, Populous

葛飾区「らしい」スタジアムの4つのあり方を補完する 公共性を支える5つの要素

- 区として、スタジアムに期待される役割を「公共性を支える5つの要素」として掲げます。
- 「葛飾らしさ」を示す4つのあり方を補完し、両者が揃うことで「あるべき姿」を実現します。

目指す姿

①都市公園とスタジアムの親和性

- 都市公園の開放性や緑豊かな環境と調和し、誰もが気軽に訪れ利用できる空間を確保することで、**日常と非日常が共存するスタジアム**とします。地域に開かれた憩いと交流の場として、人々の暮らしに寄り添います。

②防災拠点としてのスタジアム

- 平時は交流やにぎわいの場として活用しながらも、災害時には避難や支援活動に供する機能を備えるなど、**地域の安全・安心を支えるスタジアム**とします。防災力の向上に寄与し、災害に強いまちづくりを支えます。

③地域とスタジアムの共存

- 周辺環境や住環境、環境共生への配慮を図るとともに、地域住民や関係団体との連携を深めながら、地域とともに成長し、**地域のシンボルとして愛されるスタジアム**とします。地域との信頼関係を大切にしながら、持続的な価値を育みます。

④スポーツを軸とした価値の提供

- 「する・みる・支える」スポーツの魅力を提供し、人々の健康づくりや生きがいの創出、**子どもたちの成長や地域愛醸成につながるスタジアム**とします。スポーツを通じた感動やつながりを広げ、豊かな地域社会の形成に貢献します。

⑤スタジアムの公共性と経済性

- 区民に広く利用される公共施設としての役割を果たしながら、**民間企業の資金やノウハウを最大限に活用した、にぎわい創出による経済性を持った持続可能なスタジアム**とし、長期的な視点に立ち、安定した運営の実現を図ります。